

日本海区水産試験研究

連絡ニユース

日本海

(39)

陸上調査の発展と完成

岡地 伊佐雄

近來いわし、底魚資源調査の一手段として行われて来た陸上調査、いわゆるパンチンズについてその目的と得られた結果、乃至は方法自体について種々の疑問と批判の声が高くなるようである。そこでこれらの疑問や批判に対する解釈として、今後陸上調査に盛り込まれるべき考えと方法について二三述べてみる。

いわしにしる底魚にしる各調査地点におけるサンプリングは統一的方法で行われて来た。このことはサンプリング自体に要する労力費用と、この結果の精査と集計から考えて妥当な線が出されたものであり、そして又初期の段階として、各地の実状の把握が不可能であったためでもあろう。

しかしながら、底魚のサンプリング調査についてみると、調査漁業の実施時期の当初から終漁期まで、一様な抽出率（日と船）でサ

第40号  
新潟市万代島  
日本海区水産研究所  
印刷  
日青堂  
昭和29年5月18日発行

ンプリングが行われているが、漁期中における魚獲についてのみの漁獲状況は決して一様でなく、大低の場合ある程度の山をもつた変動がみられる。そして又、同一魚種についても大型魚と小型魚の両方というものも同様に現われるとは限らない。時期が異なることによつて魚群の質的組成が異なっていることが多い。

船の抽出についても大型船と小型船、或いは船頭、漁撈長の得手不得手によつて、漁場の採択にも偏りが生ずることがある。新潟地先においては大型船と小型船の出漁漁場の区別がかなり生じており、しかもそれぞれの漁場の性質、すなわち漁獲の質的組成も大きい相異がみられるのが事実である。

いわしのように、かなりの範囲にわたつて回游するものについては、各地点間の漁獲物組成には相当程度の共通性がみられるけれども、やはりかなりの質的な差の存在ははなはだしい。

又、同じ日における船間の漁獲物の変動についても漁獲の多い船と少ない船との間の相異というものは魚群の構成と行動という点から考えて、例えは体長組成の差というものを計算された値に差がなくとも、一応の注意を致す必要がある。初漁期、盛漁期、終漁期の漁獲物についても同様に種々統計的な検定の結果、或いは同一にあるには分離され取扱われているが、この一歩前の段階であるサンプリングの方法について、母集団の標準化とい

主なる項目 — 第四十号 —

- 陸上調査の発展と完成 岡地伊佐雄
- 昭和二十八年度利用担当官会議
- 春の学会
- 日本水産学会生物資源分科会会費新潟市で兩催決定
- 眞 探 内橋 潔
- 第二回南部水試利用担当官會議
- 直江津水族博物館開設
- 柏崎水族館近く創設
- 北日本海区水試フロッツフ會議開催
- 日水研第二旭丸出帆
- 第四十四研究談話会
- 新潟地方気象台帳の異動
- 人事異動

うことにつき、より以上の考慮が必要である。結論として陸上調査の主要なねらいである漁獲物組成の解析、更に進んで資源量の問題の解明等は、それぞれの調査地点の漁業の生態と魚類の生態にゆつた上での陸上調査によるべきものであり、従来の統一的方法をバックボーンとして、各地の調査担当者の実状に即した知識と方法により、これに枝を加え花を咲かせることが必要である。要するに陸上調査の発展と完成は調査担当者の明確な目的の認識と漁業の実態の把握との共同にまつべきである。(日水研資源部)

### 昭和二十八年年度利用担当官会議

四月七—九日、東海区水産研究所及び東京水産大学沼津実習場において二十八年年度利用担当官会議が開催された。

#### 提出議題

- (一) 二十九年年度水産利用部予算の説明と利用研究の方向 (研究一課)
  - (二) 研究機械器具及び圖書の優先的購入について (研究一課)
  - (三) 府県水試製造部の機能向上と連絡強化について (日本海区)
  - (四) 生物化学関係の研究とその取扱いについて (日本海区)
  - (五) 地方試験機関との連絡に關する問題 (西海区)
- 各提出者より説明があり、(一)については背景とよる基礎研究の重要性が強調され、(三)については三十年度より補助金又は委託研究費を計上し、地方水試製造部の機能向上を計り、連絡を盛にすること、(四)については各水研の性格によつて適当に取揚げることにされた。引続いて東海区水研において原料班、蛋白班、沼津に於いて油脂班、鮮度保持班の班協議会が開催された。

#### 原料班

長崎(イワシ)北海道(東比(サンマ))で

は近年脂肪含有量減少の傾向が認められる旨の報告、二十九年度はサバを全国共通の問題として取揚げることに、次回班会議は十月頃長崎で開催すること、次期班長は西海区山田技官が担当する事等が決定された。

#### 鮮度保持班

鮮度保持班の目的、研究テーマ等が論ぜられ、二十九年度も統いて煉製品の鮮度保持の研究を統行すると共に、凍後早期の肉質変化、並びに腐敗の機構に關する研究を主要テーマとして取揚げることに、各水研の研究概要の発表と検討が行われ、次期班会議の開催は未定、次期班長は東海区天野技官が担当すること等が決定された。尚、九日には青水市の大汗冷蔵(寒天)、清水製菓、清水食品等の視察を行つた。

### 春の学会

#### 諸学会に研究発表発表

本年度水産関係諸学会は三月下旬より四月上旬にわたり東京で開催されたが、日水研及び日本海各水試関係の発表は次のとおりであつた。

- バイオメトリクス・ソサイアテイ (国際生物統計学会) 日本支部大会 三月三十一日、四月一日、於東大
- 体長、年令組成による魚群構造の研究

山 中 一 郎 (日水研)  
○日本水産学会大会 四月四—七日、於日大体長、年令組成に現われる統計量の意義 (第二三報)

山 中 一 郎 (日水研)  
日本海西南海域の底質資源研究(第一報) ソーハチの年令査定

渡 辺 徹 (日水研)  
一九五二—二年度の喜山湾におけるブリ漁況と海況について

永 田 俊 一 (日水研)  
北部日本海の凍況と佐渡沖冷水塊

下 村 敏 正 (日水研)  
魚肉の洗いの現象に關する研究(第一報) 野口孝三郎(日水研) 野口孝三郎(日水研) 中海に發生する赤潮に關する化学的研究 (第十六、七報)

梶 川 豊 明 (鳥水試)  
煉製品に關する研究(水さらしによる流注成分について) 清水大二郎(新水試)

清水大二郎(新水試)  
与謝内海と入美浜湾のプランクトン異常増殖現象について

橋 高 二 郎 (京水試)  
○日本海洋学会、日本水産学会合同 生物環境集談会 四月七日、於東海水研  
日本海凍況と海況の關係 下村敏正(日水研)

### 日本水産学会生物資源分科会

今夏折写(下)月報(イワシ)

四月三日日本水産学会評議員会は全会一致

新潟市で開催することに決定

三月三十一日、四月一日 於東京  
日本海況と遊況の關係 下村延正(エッセイ)

### 日本水産学会生物資源分科会 今夏新潟市で開催決定

規模は小さいが、下関駅フラットホームに水族室があつて、マアイやシマアイなどが游泳している園は、おそろく世界にも例があるまい。規模の点では堺水族館であろう。その設立も明治年代からであるから日本最古のものである。今のは昔のと異つて鉄筋入りのもので、今ではあの戦いで姿を消してしまつたが甲子園の阪神水族館は真冬でも亜熱帯の華麗な磯魚がヒーターで暖められた水槽中を游泳していたが、当時を知る者のみの思い出となつてゐる。

但馬の日和山には何十坪もある鹹水池があつてアジ、マサバ、などが何年か餌を摂つて天然のもの以上に成長しているのは特異な存在であろう。

日本海方面では魚津、直江津、寺泊、鼠崎などに水族館があり、近く相崎にも設立される予定とまいてゐる。これ等の水族館の開設は香から秋まで、その地方の観光に一枚を累しているのは勿論だが、更世物式の鑑賞から一歩も出ていないのは心細い。

四月三日日本水産学会評議員会は全会一致で、同学会の生物資源分科会を八月下旬に

毎年夏の頃山国の信州路あたりから少年少女を引卒乗船の教師連は目が肥えているが、もあろうか水族館を見てもつと異つた趣向か欲しいとか科学的なものを見学してほしいと云う様な注文が多いと聞いている。成程ものつとも至極の事で、水族館当番者としても聞き流しにできない事で、先頃私立直江津水族館が町立に移され博物館法によつて直江津水族博物館と改稱されたのも救のない

深 ことではない。

余り面倒で、むつかしいことなどはさておいて、歌を聞きわけて餌を扱りに来る魚や字を讀んで餌の方へ泳ぐ魚を作つたり、何ヶ月も休みなく泳ぎ廻る魚や横になつて泳ぎ廻る様に魚を手術したりして、その末聲とよつて来たる処を科学的に説明したらどんなものであるうか、こうした簡單なことから一歩でも更世物式の意義から多少でも抜けることかできたのなら、水族館存在の意義は大きいものとなる。

(日本研所長)

## 魚 探

36

標 内 深 ことではない。

余り面倒で、むつかしいことなどはさておいて、歌を聞きわけて餌を扱りに来る魚や字を讀んで餌の方へ泳ぐ魚を作つたり、何ヶ月も休みなく泳ぎ廻る魚や横になつて泳ぎ廻る様に魚を手術したりして、その末聲とよつて来たる処を科学的に説明したらどんなものであるうか、こうした簡單なことから一歩でも更世物式の意義から多少でも抜けることかできたのなら、水族館存在の意義は大きいものとなる。

新潟市で開催することに決定した。なお食用品肉係分科会は九月中旬に着水市で、増殖分科会は同じ頃那珂湊(茨城県)で夫々開催される。

生物資源肉係分科会の細目は違つて全會員に通知されるが、期日は水産庁全海区水研以東底曳担当者会議(八月十九、二十日)にひきつづき八月二十一、二日の両日で、その前半日乃至一日をスケトウタラに因するシンポジウムに充てる予定である。

なお、学会員以外で出席乃至研究発表を希望される向の方は、なるべくこの機会に入会されることを学会準備委員会では望んでゐる。

### 第二回南部水試 利用担当官会議

五月十四、五の両日、山口県仙崎町に於て第二回南部水試利用担当者会議を開催する事になつた。

- 議題並びに打合せ予定事項
- (1) 資源化学調査の研究発表と打合せ
- (2) 鮮度保持に關する研究発表と打合せ

担当水試及日本研  
日本研  
(3) 工場排水に關する問題

(4) 前記以外の各府県水試の研究発表

(5) 各府県水試の提出委員の協議

公簡

(7) 其の他

尚今回の担当者会議には調査研究部の担当者も出席の予定

北部水試利用担当者会議は六月上旬、新潟県寺泊町に於て開催の予定

### 北日本海区水試ブロッツ会議

北日本海に臨む、青森、秋田、山形、新潟の四県の水試は仕事の上から密接な関係があるの、連絡を密にし、試験研究並に指導の内容や方針を検討し、協同歩調をとる趣旨のもとに、青森県主催のもとに第二回のブロッツ会議が四月十六、七の両日開催され、各県関係者が出席し、白水研からも内務所長の出席があった。(青森水試)

### 直江津水族博物館開設

前年博物館法によつて認可された町立直江津水族博物館は四月十五日夏期経営を始め、同館には専任学芸員補として白水研区水研よ

り 武田信之氏が兼任した。(白水研)

### 柏崎水族館近く創設

観光都市柏崎市に水族館設立の要望は以前より強かつたが、この度同市観光協会が主体となつて、来る六月中旬より同館の運びに至つた。(白水研)

### 白水研第二旭丸出帆

白水研第二旭丸は、石川県能登近海のイフシ資源調査と群生魚研究を目的として去る四月十三日新潟港を出帆した。今航海はイフシ漁法改良も重要な目的とし、特に中層域に關する基本試験は業界から注目されている。新潟帰港は六月上旬の予定。(白水研)

### 第四十回研究談話会

白水研では、四月二十一日、第四十回研究談話会を開催した。発表者とその演題は次の通りであつた。  
一、ワカサギ卵巣重量の考察 加藤源治(資源部)  
二、魚肉の、洗ハツの現象について 野口栄三郎(利用部)

三、生物統計学会(Biometrics Society)に出席して 山中一郎(資源部)

### 新潟地方気象台長の異動

新潟地方気象台長萩重一彦氏は、中央気象台気象研修所長に転任した。(四月一日付)なお、その後任は前横浜測候所長川瀬二郎氏である。

### 人事異動

日本海区水産研究所  
四月一日 西村三郎  
農林技官大級(日本海区水産研究所資源部)に採用する。  
四月一日 香住支所 味田 潔  
白水研庶務課に配置換する  
四月十六日 水産庁 調査研究 山中義一  
白水研資源部に配置換する

日本海区水産試験研究

刊行

号代島 刊行 社版社 日 行

今後このまゝでよいかと  
いうことになるときらこ

主なる頁